

特産果樹

＊おうとう＊

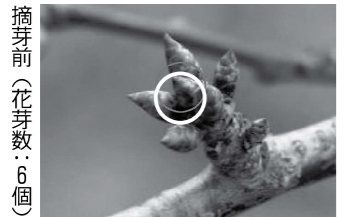
摘芽で大玉生産、霜害防止対策を徹底しよう！！

1. 霜害防止対策

生育ステージが早いことが想定されるため、りんごと同様、霜害対策には万全を期す。(詳細はりんごの項3を参照)

2. 摘芽

紅秀峰は着果量が多くなりやすいので、催芽前(4月上旬頃)までに摘芽を行う。花束状短果枝の大きい花芽を3芽程度残して、他の花芽を指でかき取る。葉芽(○印で囲んだ芽)は残し、人工授粉は必ず行う。なお、晩霜の常襲地帯や花芽の少ない樹、樹勢の強い樹では行わない。



摘芽前
(花芽数:6個)



摘芽後(同一個、
大きい花芽を残す)

3. 結実確保

おうとうの開花期は、低温や強風に遭遇することが多い時期であることから、マメコバチを導入している園地であっても、毛ばたきによる人工授粉を徹底する。毛ばたきは5分咲き頃と満開期に、計2回実施する。

4. 病虫害防除

「開花直前」以降は、散布予定日に降雨が予想される場合は、事前散布に徹する。

■薬剤散布(散布時期は生育状況により変わるので、自園地の状況を確認する)

散布時期	基準薬剤	散布量 g/10a	
発芽前	ハーベストオイル 又はトモノールS	50倍	350
開花直前 (4月下旬)	オーソサイド水和剤80	800倍	450
満開5日後頃 (5月上旬)	パワード顆粒水和剤 又はオンリーワンフロアブル 又はラリー水和剤 又はオーシャイン水和剤	1,500倍 2,000倍 2,000倍 3,000倍	500

※コスカシバの発生が多い園地では、開花前にフェニックスフロアブル500倍を枝幹部に十分かかるように手散布する。

＊ぶどう＊

休眠期防除は黒とう病や晩腐病防除の要！必ず散布する！！

1. 園地の点検

雪で傾いた支柱や破損した腕木を取り替え、架線の緩んでいるものは補強して、主枝を結束し直す。また、病害の発生源となる架線上の巻きひげや成り跡、粗皮を除去し処分する。

2. 野ネズミ被害の事後対策

野ネズミの食害により回復が見込めない場合は、苗木更新する。

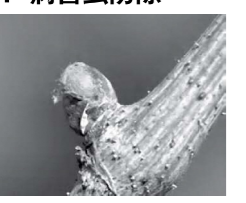
3. 施肥

基肥を秋に施用している園地では、4月上旬に全量の10%を追肥として施用する。また、春に基肥を施用する園地では、全量の60～80%を施用する。昨年(2020)の8月の大雨の影響で樹勢が弱くなった園地では、施肥の判断は樹の生育状況を見て行う。

■ぶどう成木の標準施肥量(kg/10a)

区分	窒素	りん酸	カリ
全量	15	10	10
春が追肥の場合(秋に基肥)	1.5	1	1
春が基肥の場合	9～12	6～8	6～8

4. 病虫害防除



ぶどうの催芽

昨年(2020)は各地で黒とう病の発生が目立った。休眠期は、黒とう病や晩腐病防除の重要な時期なので、催芽前に必ず薬剤散布する。自園地のぶどうの生育をしっかりと観察し、散布が遅れないよう注意する。

- ※1 催芽：りん片が開いて褐色の綿毛が見え始めた状態
- ※2 催芽日：樹全体の20%以上の芽が催芽した日
- ※3 平年の催芽日(スチューベン)：4月15日(平成16年～令和5年の平均値、調査地は鶴田町境)

■薬剤散布(スチューベン、シャインマスカット)

散布時期	基準薬剤	散布量 g/10a
休眠期 (4月上旬)	デランフロアブル	200倍
	又はパスポート顆粒水和剤	250倍
	又はペンレート水和剤	200倍
	ガットキラー乳剤	100倍
200		

5. 霜害防止対策

生育ステージが早いことが想定されるため、りんごと同様、霜害対策には万全を期す。(詳細はりんごの項1を参照)ハウスぶどうでは、暖房器具(石油ストーブ)を用いてハウス内を加熱する。

＊野菜＊

温度変化が激しい時期、きめ細かな温度管理に努めよう！

トマト

1. 定植準備

ハウスのパイプ等の歪みや、被覆ビニールの破損がないか確認し、早めに修復する。土壌が乾燥している場合、耕起前に散水し、手で軽く握って崩れない程度の状態で耕起する。堆肥や改良資材等は定植1か月前、基肥は定植2週間前を目安に施用する。

■標準施肥量(kg/10a)

窒素	りん酸	カリ	備考
10～12	28～35	10～12	冬期間、屋根のフィルムを除草しない場合、肥料が残るため、基肥量は土壌分析に基づいて減ずる。

定植の7～10日前にはマルチを張り地温を高めておく。

2. 定植

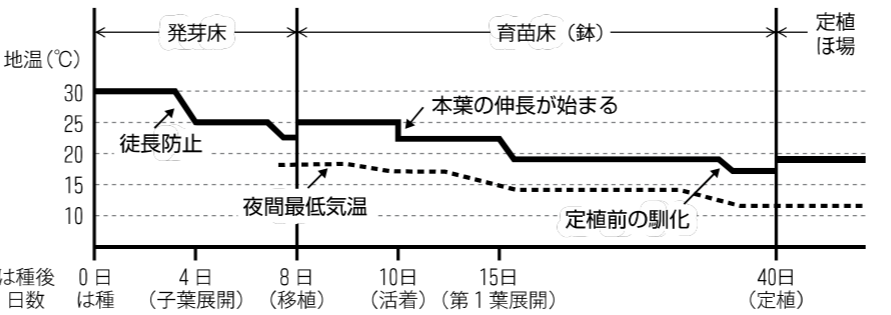
定植前日に鉢に灌水する。肥料不足の場合は液肥で追肥を行う。深さ10cmの地温15℃以上を確保し、定植を行う。植え付けは、花房を通路側に向け、鉢の回りを両手で上から押して土と根鉢を密着させ、根鉢上面と畝面が同じ高さになるように行う。植穴を掘ったときに出た土は植穴の周囲に盛り土として置き、マルチの熱が逃げないようにする。夜間の冷え込みが予想される場合は、不織布のべたがけや加温機を設置する等、保温に努める。

メロン

1. 育苗管理

- (1) 移植(鉢上げ)
移植1週間前までに鉢に土を詰め、ビニールで被覆し床温(地温)を高めておく。苗立枯病防止のため深植えせず、温度が下がり始める午後3時頃までに移植を終える。
- (2) 移植後の管理
床温(地温)は下図を参考に管理し、トンネル内の気温は15℃～30℃を目標にする。鉢上げ直後から1～2日間はトンネルを密閉し、日差しが強い時は遮光し、最高気温は30℃以上にしない。3日目からはトンネルを開閉して換気を行い徒長を防ぐ。鉢の表面が乾いたら、床温(地温)を下げないように午前中に温水をかける。葉と葉が重なり合うようになったら、鉢ずらしを行い、苗の受光体勢をよくする。この時、外側と内側の苗を入れ換え、生育を揃える。定植の7日前から夜温を徐々に下げ、苗を外気に慣らす。

■発芽床と育苗床(鉢)の床温(地温)管理



2. 本畑の準備

堆肥や改良資材等は定植2週間前に、基肥は定植10日前に施用する。畝の高さは、畑地では20cm、転作田では30cmの高畝とする。定植の1週間前にはマルチ、トンネルを張る。マルチは、地温上昇効果や抑草効果の高いグリーンマルチを使用し、深さ20cmの地温を18℃以上に高めておく。また、均一な土壌水分を確保するため、マルチ前に十分かん水するか、降雨後にマルチングする。

3. 定植

速やかな活着を促すため、定植作業はなるべく温暖な日に行う。夜間の冷え込みが予想される場合は、早めにトンネル被覆資材を閉じるとともに、保温キャップや不織布などの資材を併用し、保温に努める。

＊花き＊

温度・水管理を徹底して初期生育を確保しよう！

トルコギキョウ

1. 夏出荷の管理

- (1) 秋播き無加温栽培
日照時間の増加、気温の上昇に伴い莖が伸長するので、発らうまで極端に乾燥させないように管理する。低節位から分枝が発生した場合は早めに除去して主茎の伸長を促す。
- (2) 春播き栽培(4月定植)
ほ場のpHが低い場合、pH6.5を目標に土壌改良する。基肥は基本的に3要素とも10kg/10a程度であるが、ECが0.4以上の場合は下表を参考に減肥する。

■施肥前EC値による基肥窒素量減肥の目安(対基準量)

土壌の種類	0.3ms/cm以下	0.4～0.7	0.8～1.2	1.3～1.5	1.5以上
腐植質黒ボク土	基準量	2/3	1/2	1/3	無施用
沖積土・洪積土			1/3		
砂質土		1/2	1/4	無施用	

定植前に地温を12～20℃に高めておき、定植適期の本葉2.0～2.5対(展開葉4枚程度)の時に定植する。かん水は地温が急激に下がらないよう暖かい日の午前に行い、極端に乾燥しないようこまめに行う。

2. 春播き秋出荷のは種・育苗

育苗用土はpH6.5前後で肥料成分が含まれている清潔なものを使う。用土に有機質が多く含まれているとチビクロバネキノコバエが発生しやすいので注意する。小さいセルで育苗すると老化しやすいため、288穴程度の大きさのセルトレイに1穴1粒播きする。は種後は覆土はせずに、発芽まで昼温20～25℃、夜温15～18℃を目標に管理する。発芽までは乾燥させないことが重要で、上部からのミストかん水が望ましいが、そのような設備と労力がない場合は底面吸水も有効である。その場合は、育苗箱の底から根が見え始めたら、上部からのかん水に切り替える。発芽揃い後は、昼間20℃、夜間15℃程度を目安に管理する。

農作業事故に気をつけましょう！

- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 自分の体力、注意力を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

農薬適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう！

- 使い残した農薬などは、河川等へ絶対捨てない。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

町農業委員会では、毎年6月上旬から農地パトロールを実施し、遊休農地や、放任園等の発生防止に取り組んでいます。農地の貸借や売買については、町農業委員会へご相談ください。

【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。
鶴田町農業支援センター 午前9時から午後5時 ☎22-2111 (役場農業振興課)

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～
URL <http://www.town.tsurutata.lg.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>